

NEWS RELEASE

2022年7月26日

日本豆乳協会

SOY2203

日本豆乳協会

**2022年度、「いつでも、どこでも豆乳生活」をテーマに、
豆乳による食育を中心とした様々な啓発活動を展開
～年間を通じた食育イベントの実施やコミュニケーションツールを通して
豆乳の特長や優位性を訴求～**

日本豆乳協会（事務局：千代田区二番町 会長：藤村 公苗 キックコーマンソイフーズ株式会社 代表取締役社長、事務局長：杉谷 智博、以下豆乳協会）では、豆乳市場が年間40万kℓ生産量を達成し、拡大傾向にある中で、2022年度はさらに、一般生活者に豆乳の特長や優位性を訴求するため、様々なイベントやコミュニケーションツールを活用して消費者への啓発活動を積極的に展開します。

2022年度は、昨年に引き続き「いつでも、どこでも豆乳生活」をテーマに掲げました。このテーマには、新型コロナウイルスの影響が続く今日、これまでよりも在宅時間が長くなり、新しい生活様式が根付きつつある中で、子供から両親、祖父母にいたる家族全員が、改めて健康について意識し考えていただきたいという願いが込められています。また、毎日、豆乳を飲み、日常的に豆乳を使った料理を食す機会を創出する豆乳生活の定着化を目指しています。

さらに、昨年に続き全国の高等学校で、豆乳や大豆に関する食育活動を積極的に展開します。7年目を迎えた「豆乳食育移動教室」は、全国の調理や栄養を学ぶ高校生を対象に開催します。本年は、新型コロナウイルスの影響で授業数が減少している中で、オンラインや直接出向いての講義等、希望する学校のニーズに応じた形式で講義を開催する予定です。また、「第9回豆乳レシピ甲子園」は、6月10日から応募を受け付けています。さらに、たんぱく質の摂取によるアスリート支援として、第7回目となる全国の高等学校での豆乳のサンプリング「スポーツ豆乳応援キャンペーン」と題し、新型コロナウイルス対応のキャンペーンとして展開していきます。

本年度も、豆乳協会では、ホームページをはじめ、オウンドメディア「豆乳生活」、ニュースレター等の様々なコミュニケーションツールを通して、タイムリーに豆乳に関する情報を発信していきます。

(参考)

日本豆乳協会は、豆乳および豆乳製品の普及を第一の目的に啓発活動を行っています。1979年（昭和54年）9月1日の設立以来、豆乳メーカー各社が会員となり、メーカー同士の親睦や情報交換、さらには他の機関や団体との協調を図っています。豆乳類の製造、加工、品質、流通に関する研究はもちろん、業界の健全な育成、発展に寄与することをミッションに日々、豆乳の普及や期待される効果・効能の啓発活動を推進しています。毎年10月12日を「豆乳の日」と定め、業界全体を巻き込んで豆乳の普及に向けた様々な活動を展開しています。

<本件に関する報道からのお問い合わせ先>

日本豆乳協会広報事務局

(株)VA インターナショナル
田中／岩野

メール：vai@va-intl.co.jp
TEL:03-3499-0016 FAX:03-3499-0017